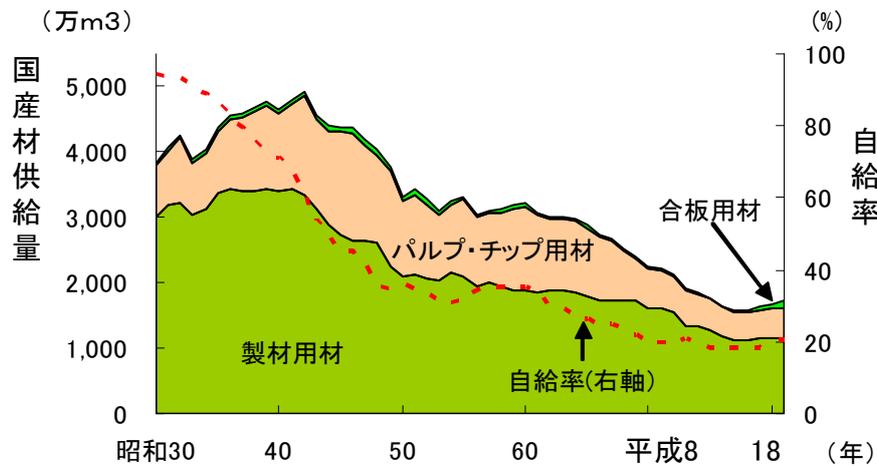


## 第IV章 林産物需給と木材産業

### 1 林産物需給の概況

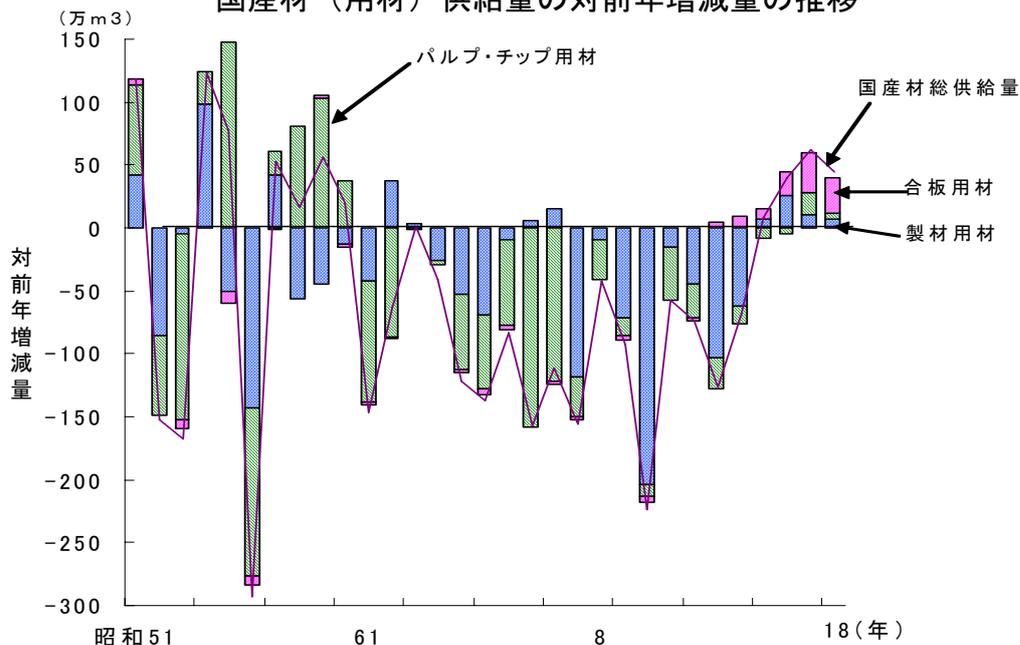
- ◇平成18年の木材需要量（用材）は8,679万 $\text{m}^3$ であり、平成14年以降9千万 $\text{m}^3$ を下回る状況が続いているものの、前年よりは93万 $\text{m}^3$ 増加。
- ◇国産材（用材）の供給量は1,762万 $\text{m}^3$ であり、合板用への供給量の増加等を背景として4年連続で増加。また、平成18年の自給率は20.3%となり2年連続で上昇。
- ◇特に、ここ2年は、製材用材、パルプ・チップ用材、合板用材の供給量がいずれも増加傾向にあり、このことは過去にもあまりみられなかった傾向。

国産材（用材）供給量と自給率



資料：林野庁「木材需給表」

国産材（用材）供給量の対前年増減量の推移

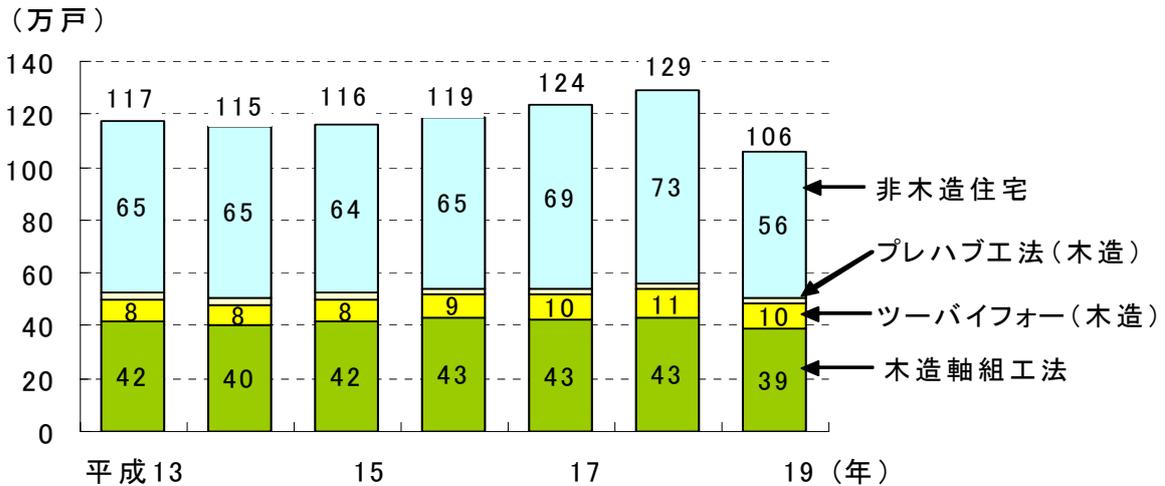


資料：林野庁「木材需給表」

## 2 木材産業をめぐる動き

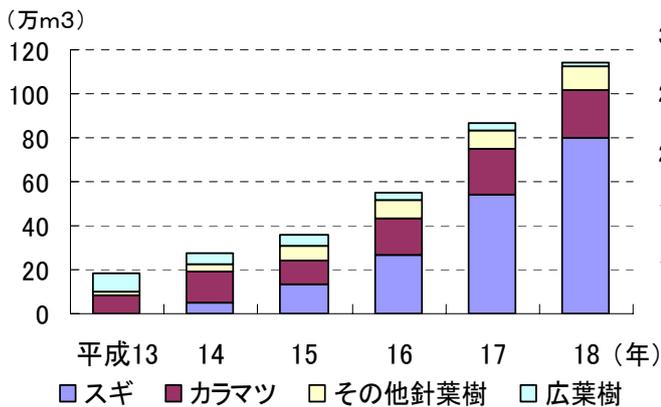
- ◇平成18年の新設住宅着工戸数は129万戸であったが、平成19年は改正建築基準法の施行の影響等もあり106万戸に減少。
- ◇製品の品質・性能に対する消費者ニーズが高まる中、需要が拡大している合板や集成材において、国産材の利用が増加。
- ◇今後は、林業と木材産業が一層連携を深め、原木の安定供給と品質・性能の確かな製品の安定供給に取り組み、スギ等の国産材の新たな需要先を定着・拡大していくことが重要。

新設住宅着工戸数の推移



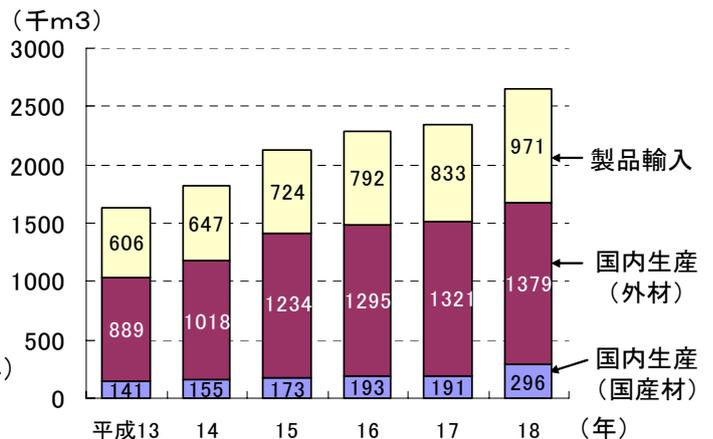
資料：国土交通省「住宅着工統計」

合板用素材(国産材)の供給量の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」、「木材統計」

集成材製品の供給量内訳の推移



資料：財務省「貿易統計」、林野庁業務資料

- ◇製材工場は、小規模な工場が減少傾向にある一方、大規模工場の素材消費量が増加している状況。
- ◇今後、需要者ニーズに対応した製品を安定的に供給するには、スケールメリットを追求した加工体制の整備のほか、地域に根ざした特色ある取組等を進めることが重要。さらに、未利用材の活用を図ることも重要。
- ◇適正に生産された木材を利用する取組の一環として、合法木材の利用など違法伐採対策への取組や森林認証の取得の広がりがみられるところ。

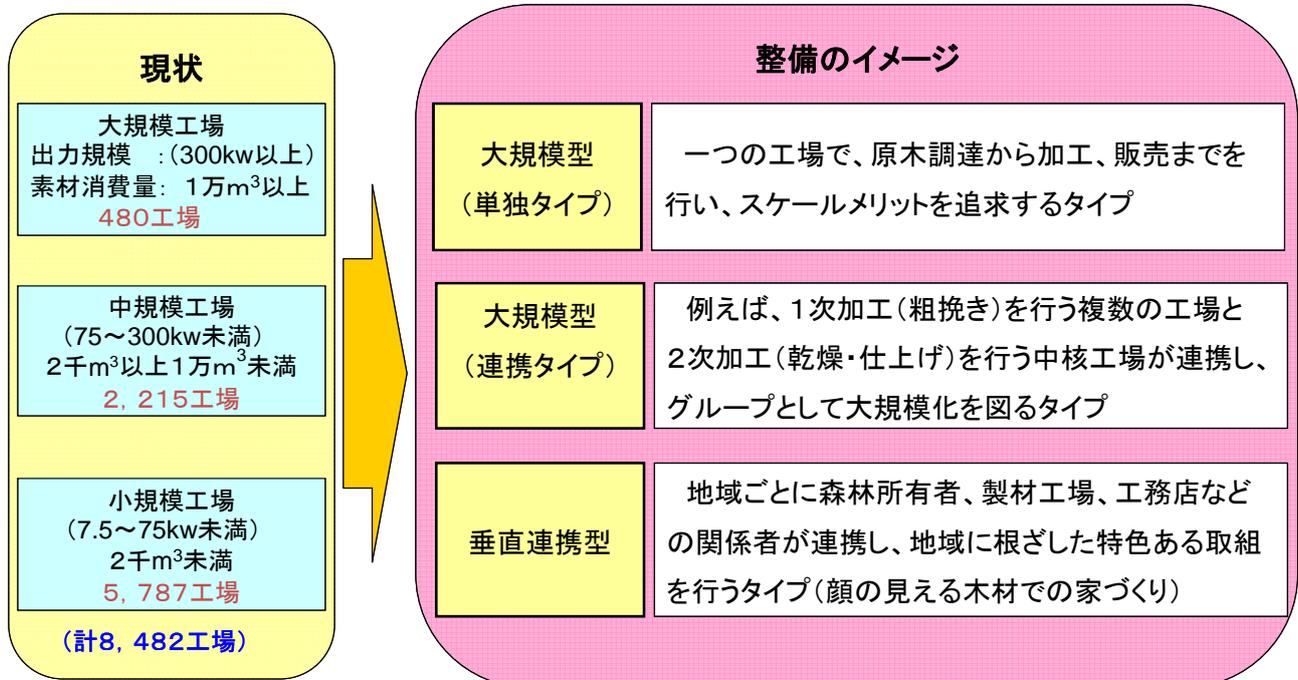
出力規模別の製材工場 1 工場当たり素材消費量

(m3)

	小規模			中規模		大規模	計
	7.5kw～	22.5～	37.5～	75.0～	150.0～	300.0kw以上	
平成13年	286	446	840	2,224	4,818	18,670	2,142
平成18年	208	370	728	1,992	4,651	22,444	2,394
増減率(%)	-27	-17	-13	-10	-3	20	12
規模別増減率(%)	-17			-6		20	

資料：農林水産省「木材需給報告書」、「木材統計」

整備方向のイメージ



資料：農林水産省「平成18年木材統計」

### 3 木材利用を推進するための取組

- ◇国産材利用を総合的に推進していくためには、住宅分野において需要者ニーズに応えた製品の供給や「顔の見える木材での家づくり」などの取組を進めることが重要。また、農林水産省においては、公共事業や庁舎等の施設、事務用品等の調達において木材製品の積極的な利用に取り組んでいるところであるが、公共施設や公共土木工事等においても広く木材の利用を推進することが重要。
- ◇また、国産材利用拡大のための国民運動である「木づかい運動」のほか、材料としての木の良さや利用の意義を学ぶ「木育」を進めていくことが重要。
- ◇さらに、木質バイオマスについては、多岐にわたる利用法が実用化され、環境に優しい資源として利用が進むことが期待される状況。
- ◇木材輸出は、近年増加傾向にあり、製材については中国、韓国向けに木造住宅を輸出する取組がみられる状況。今後は、輸出先国の消費者ニーズを踏まえた新規市場の開拓も含め、付加価値の高い製品の輸出に向けた取組を推進することが重要。



公共施設における国産材利用  
「こもロッジ」  
(長野県小諸市)



地域材を利用した駅舎  
「高知駅」  
(高知県高知市)



木製遊具を用いた「木育」の推進  
「オホーツク木のプラザ」  
(北海道北見市)

#### <事例：森林整備と木材利用を結びつけた取組>

J社は、社員らが森林整備を行った際に産出した間伐材を活用してオリジナル文房具を製作し、自社系列の約2,000の店舗に配布している。これらの製品を通して、来店者に地球温暖化防止への貢献と森林整備の大切さを啓発している。



#### <事例：中国への木造住宅の輸出>

平成20年6月に中国（北京）において「未来の家プロジェクト」が開催される予定である。世界10カ国が先進的な住宅を展示することとなっており、我が国からは、鹿児島県のK社が参加し、鹿児島県産のスギ材（約80㎡）を使用した木造軸組構造住宅に、欧米風の外観とソーラーシステムを装備した省エネ住宅の展示を行うこととなっている。平成19年5月に行われた棟上げの際には、近隣の小学生を招待して餅撒きを行うなど、日本の文化の紹介も行いながら木造住宅の普及に努めている。

